

新年の挨拶

あけましておめでとうございます。

新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。会員の皆様方には日頃から、山崎農業研究所の活動、運営に多大なるご支援・ご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

2016年はどういう年だったのでしょうか、2016年のインターネット検索ランキングから主なキーワードを選んでみました。国際情勢では、トランプ勝利、ポピュリズム、サウジ・イラン国交断絶、朴大統領、北朝鮮水爆実験、重力波観測成功、ベルギー地下鉄テロ、パナマ文書暴露、ダッカテロ（日本7人死亡）、仏ニーステロ、ミュンヘンテロ、警察官黒人射殺続発（米国）、トルコクーデータ失敗、リオ・オリンピック、イタリア中部地震等が、国内では、相対的貧困、格差社会、日本死ね、都知事選、豊洲市場、電通新人自殺、熊本地震、マイナンバー、西日本寒波、東北地方台風被害、国勢調査初めて人口減少、民進党発足、18歳選挙権、国立西洋美術館世界遺産登録、米軍オスプレイ事故、プーチン来日等が上位を占めています。

もちろん、これ以外にも多くのキーワードがありますが、昨年1年間でも実に様々なことが起きていることがわかります。日本も含め、広がる格差や貧困などから、グローバリゼーションへの懐疑論が高まりつつありますが、かといって平和的、互恵的国際関係への流れではなく、異人種や異民族、異宗教への憎悪を煽り立てる、偏屈なナショナリズムが台頭しつつあるのは気がかりです。

食糧・水問題、環境問題が意外に少ないのが気になります。これは日本だけの傾向なのかどうか良くわかりませんが、英字新聞などではこれらの問題は比較的多く取り上げられてきたような印象があるので、ひょっとしたら、日本人は少し食糧問題や環境問題に鈍感になっているのでしょうか。国会ではTPP批准などを優先し、パリ協定批准が後回しにされて国際的な批判を浴びています。日本の環境技術は素晴らしいと自画自賛する傾向がありますが、京都議定書以降の日本の取り組みは全く真逆です。あの日経新聞ですら「日本は環境先進国である」というのは幻想にすぎない。環境分野で進む構造転換に日本は乗り遅れ、今や欧米勢や中国勢の後塵を拝している」と指弾しているほどです。

教育問題も深刻です。日本の教育に対する公共投資率は2015年までOECD32ヶ国中6年連続最下位、昨年ようやく31位で一つランクを上げたという惨憺たる状況です。先進国の多くが幼稚園から大学まで、学費は無料、あるいは手厚い奨学金制度がありますが、日本ではそうなっていません。教育格差は経済格差の固定化と拡大再生産を加速させています。

それにしても、これだけ多くの政治的課題があるのに、国民の不満、批判が大きな動きにならないのはなぜなのか疑問に思うことがあります。いつからか社会を語る、政治を語ることを「ダサイ」といつて忌避することがこの国に定着してしまったような気がします。お隣の韓国では大統領府の不正に絡んで国民の怒りが大規模な大衆行動として湧き起っていますが、このような動きに対して、“韓国人はすぐ怒る民族”といった嘲笑的な投稿が、ある大手メディアに掲載されて唾然としました。果たしてどちらが健全なのでしょうか。

長々と述べてしまいましたが、山崎農業研究所は、今後も農業、農村、食糧問題の研究を通じて、社会の健全な発展に少しでも寄与するべく活動してまいりたいと思います。今年が皆様にとって良い年でありますようお願い申し上げます。

2月4日 156回定例研究会開催の案内

「震災・水害と自治・地域住民及び水文化」（仮題）

我が国は、古来より自然災害と共存しながら人々が暮らしを営んできました。地震・津波・台風、いづれを見ても世界的にリスクの高い国土であることは間違いないことですが、これらは、一方では大いなる恵みを私たちに与えてきました。それだからこそ、先人たちは荒ぶる自然を鎮めて、安全、安寧と豊作を祈願するといった精神文化を各地に育みながら、地域の協働力によって災害を克服し、自然の恵みを分かち合うような社会を作り上げてきたとも言えます。もちろん、利水や治水等の土木技術も大いに発展させてきたのは疑う余地がありません。

しかし、都市部への人と物の集中は災害リスクを高め、農村地域の衰退は自然を適度にコントロールしてきた社会的力を減退させてきているのではないのでしょうか。このような現代だからこそ、地域の自主的な力で防災を考える視点が必要ではないかと思ひ、大156回定例研究会は、「震災・水害と自治・地域住民及び文化（仮題）」をテーマに開催することになりました。講演は、大熊孝氏（新潟大学名誉教授）、大橋欣治氏（元農林水産省北陸農政局長）のお二方をお願いすることになりました。皆様の積極的な参加をお待ちしております。

開催要領

1. 日時：2017年2月4日（土）13：15～17：00
2. 会場：NTC コンサルタンツ（株）大会議室
東京都中野区本町1丁目32番2号ハーモニータワー20階
3. 参加費：500円（資料代）
4. プログラム（案）
 - I. 挨拶 小泉浩郎 山崎農業研究所所長 13：15～13：20
 - II. 講演・討論 ①大熊孝氏 「技術にも自治がある」 13：20～14：50
②大橋欣治氏「調整中」 15：00～16：30
③討論 16：30～17：00
 - III. 懇親会 参加費 4000円 17：15～19：15（会場周辺で調整）

大熊孝氏略歴

1942年8月台北市生れ。東京大学大学院工学系研究科博士課程卒業、新潟大学工学部名誉教授
1987年より「新潟の水辺を考える会」代表を務め、2015年7月より顧問。

大橋欣治氏略歴

1940年東京都生れ。1964年東京大学農学部農業工学科卒業、農林水産省に入省、北陸農政局長を最後に退任、(社)農村環境整備センター専務理事、鹿島建設(株)専務取締役・技術研究所長・研究技術開発本部長を歴任、現在、農と水と土の科学文化研究所・代表

ホームページの更新

ホームページを更新（12月27日更新）しました。HPに連載（玉川上水の奇跡『ひとくいかわ』安富六郎：前農研所長）を掲載しています（3週間毎）。連載は6回程度を予定しています。

会費納入のお願い

2016年度会費を納入されていない方は早めの納入をお願いします。

玉川上水に関する常設展示施設

昨年10月、現地研究会として玉川上水を視察しましたが、玉川上水に関する常設の展示施設として、以下の2施設があります。興味のある方は是非訪れてみてはいかがでしょうか。

羽村市郷土博物館 東京都羽村市羽 741 JR 羽村駅から徒歩約15分

休館日 : 月曜日(祝日の場合は開館)と12月29日～1月3日

入館料 : 無料

開館時間 : 9:00～17:00(屋外展示:9:00～16:00)

※玉川上水の歴史や施設の模型など、子供から大人まで楽しめる展示になっています。館内には資料閲覧施設や本の販売も行っており、研究者にとってもありがたい施設です。



羽村堰のジオラマ



末端給水施設(復元)



上水と新田開発のパネル

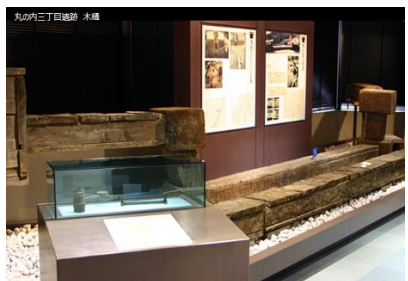
東京都水道歴史館 東京都文京区本郷二丁目7-1

休館日 : 毎月第4月曜日

入館料 : 無料

開館時間 : 9:30～17:00(入館は16:30まで)

※東京都の水道に関する博物館ですが、その先駆けである玉川上水関連も展示されています。



江戸の木樋; 今の水道管のようなもの



『上水記』東京都指定有形文化財(古文書)

シンポジウムの紹介

いずれも無料ですが、事前登録が必要です。興味のある方はそれぞれのWebサイトをご覧ください。

「農福連携」シンポジウム; 農業を通じた障害者就労生活困窮者等の自立支援と農業・農村の活性化主催 : 農林水産省農林水産政策研究所

日時 : 2月14日(火) 13:00～16:30

場所 : J A 共済ビル カンファレンスホール (東京都千代田区平河町2-7-9 J A 共済ビル1F)

公開シンポジウム「農・食・健に関する国際フォーラム」

主催 : 日本学術会議、農業情報システム学分会

日時 : 3月21日(火) 10:00～17:30

場所 : ふじのくに千本松フォーラム(ブラサヴェルデ) コンベンションホールB (静岡県沼津市)

山崎記念農業賞推薦のお願い

7月の総会開において山崎記念農業省の授与を行います。選定は5月頃から行う予定ですが、それまでに会員におかれましては、農業賞にふさわしい個人、団体の推薦をお願いいたします。公式の推薦は推薦理由や活動内容が分かる資料が必要ですが、とりあえず打診程度の推薦ということで、メールや電話で簡単に紹介していただいても結構です。

- まだ大きな注目は集めていないが、農業や農村の健全な維持、発展、あるいは安全安心の食料提供に寄与している個人、団体を対象とします。比較的メジャーな賞をすでに受賞している場合や、マスコミ等に大体的に取り上げられている場合は、山崎記念農業省の趣旨からやや外れてしまうかもしれませんが、程度問題なので、推薦者がこれは面白いと思うようでしたら遠慮なく推薦してください。
- 農業者、農業法人、行政や担当者、農業・食料関係の研究者・技術者、企業家、農民・市民運動家など、対象の形態は問いません。
- すでに効果が現れている活動だけでなく、今後、大きな可能性を秘めていると思われるものも表彰対象となります。

2017年山崎農業研究所活動予定

今年の研究所の活動予定は、詳細はまだ決まっていますが主な行事は以下の通りです。特に4月の定例研究会のテーマについては検討中です。取り上げてほしい話題、テーマがありましたら是非お声を寄せてください。「耕」140号は2月中の発行を目標に編集に取り組んでいますが、編集部員の通常業務が繁忙期に入り作業が遅れ気味になっており、やや遅れるかもしれません。大変申し訳ありませんが、どうぞご容赦ください。

農研行事予定（変更する場合有り）	社会・世界
2月 定例研究会 「耕」140号発行	1月 米国新大統領就任 3月 香港特別行政区行政長官選挙 常磐線 浜吉田ー駒ヶ嶺 間 18.2キロ開通
4月 OR 5月 定例研究会 5月 「耕」141号発行	4月 沖縄返還45周年 フランス大統領選（5月に第2回投票） 5月頃 G7サミット・イタリアシシリー（日程は流動的）
7月 総会&山崎記念農業賞授与	7月 東京都議選（予定） イギリスがEU議長国就任（離脱決定後でも関係なし）
10月「耕」142号発行 現地研究会 12月 定例研究会&忘年会	9月 ドイツ連邦議会選挙 中国共産党第19回全国代表大会（日程未定）

お願い

「ニュース」はできるだけ迅速にお知らせしたいので、未だ事務局にe-mailアドレスをお知らせでない方（紙ベースでこのニュースが届いた方）は、下記までメールアドレスをご連絡ください。

〒164-8721 東京都中野区本町一丁目 32-2 ハーモニータワー20階 NTC コンサルタンツ（株）

開発事業部 益永八尋 E:mail y.masunaga@ntc-c.co.jp